

中国五代国家論

山崎 覚士 著

佛教大学研究叢書⑫

▶ A 5 判・368頁／定価 6,825円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1545-4

2010年12月刊行

中国史において五代十国時代は、一般に分裂・混乱期とされてきた。しかし本当に単なる無秩序・不条理の時代であったのか。各国間の均衡を保つ、何らかの秩序が存在していたとは考えられないか。

本書は、当該期に働く国際的な秩序構造に目をむける。第一部「天下のうち」篇では「平王」などの爵位や藩鎮制、国書の検討から「中国」―諸国間の支配関係を考察し、第二部「天下のそと」篇では中国の権力構造に含み込まれつつも、海上に新たな国際秩序をつくろうとした呉越国に焦点をあてて論じる。

既成の史観をはなれ、五代十国時代における「国家」の構造を明らかにする意欲作。

序 論 五代政治史研究の成果と課題

- 第一節 五代史の語られ方
- 第二節 五代十国政治史研究の成果
- 第三節 五代十国史研究の課題―天下論を参考に―
- 第四節 本論の構成

第一部 天下のうち篇

第一章 五代の「中国」と平王

- 第一節 平王の位階
- 第二節 平王と国王の相違
―「中国」内外を分ける指標―
- 第三節 五代の「中国」

第二章 五代「中国」の道制―後唐朝を中心―

- 第一節 五代「中国」における道と州の状況
- 第二節 藩道―属州命令系統
- 第三節 五代「中国」における地方財政

第三章 呉越国王と「真王」概念

―五代天下の形成、其の一―

- 第一節 「真王」の概念的側面
―呉越国王冊命文を手がかりに―
- 第二節 「真王」の実体的側面
- 第三節 五代天下の素描、其の一

第四章 五代における「中国」と諸国の関係

―五代天下の形成、其の二―

- 第一節 国書のやりとり―「中国」と諸国の関係―
- 第二節 進奉と貢献
- 小 結 五代天下の素描、其の二

第二部 天下のそと篇

第五章 九世紀における東アジア海域と海商

―徐公直と徐公祐

- 第一節 義空書函群の分析
- 第二節 大宰府鴻臚館と海商
- 第三節 両浙地域と海商
- 第四節 東アジア海域と浙東地域

第六章 唐末杭州における

都市勢力の形成と地域編成

- 第一節 杭州初期勢力とその立地
- 第二節 杭州勢力の結合形態
- 第三節 浙東への進出

第七章 未完の海上国家―呉越国の試み―

- 第一節 呉越国の海上交通網
- 第二節 呉越国の政策
- 第三節 九世紀東・南シナ海交易圏

第八章 港湾都市、杭州

―五代における都市、地域、海域―

- 第一節 運河都市から港湾都市へ
- 第二節 呉越国杭州城の港湾施設
- 第三節 呉越国の寺院建立

(やまざき・さとし) 1973年大阪府生. 大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学. 博士(文学). 佛教大学歴史学部准教授. 【主要論文】「宋代両浙地域における市舶司行政」(『東洋史研究』69巻1号, 2010年6月). 「天聖令中の田令と均田制の間」(『唐代史研究』11号, 2008年8月). 「貿易と都市―宋代市舶司と明州―」(『東方学』116輯, 2008年7月)

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中閏田町2-7 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	中国五代国家論 本体6,500円(税別)		ISBN978-4-7842-1545-4	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

「封建」・「郡県」再考 東アジア社会体制論の深層

張翔・園田英弘編

東アジアの社会体制（あるいは統治機構）を表す「封建」と「郡県」という伝統的大概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的発展の構造を解明。中央と地方の関係のみならず、秩序と規範、教育と学問、自国と外来勢力、科举制と身分制、さらに議会民主制などの視角も取り入れた13篇。日文研での共同研究。
▶A5判・412頁／定価 6,825円 ISBN4-7842-1310-4

※東アジアの交流と地域諸相

金沢星稜大学ORC北東アジア交流研究プロジェクト編

経済・文化・学術・観光の視点から北東アジアの「交流の多様性」を明かし、「アジア地域交流学」の構築を目指す金沢星稜大学ORCプロジェクト。本書はその一環として2005年に敦煌研究院の2氏を迎えて開かれた「アジア文化交流と世界遺産を語る」フォーラムの成果である。
▶B5判・170頁／定価 3,360円 ISBN4-7842-1306-6

東アジアと『半島空間』 山東半島と遼東半島

千田稔・宇野隆夫編

文明にとって半島は、文化の拡散過程におけるゲートウェイ的性格を持ち、文化がそこに滞留し醸成する場であった。山東、遼東半島では、先史・古代・中世までは中国文明の出口、近代にあっては列強諸国による近代文明の侵入口であった。通時・学際・国際的な議論から東アジア文明論に新視点を与える。日文研でのシンポジウムの成果。
▶A5判・420頁／定価 5,040円 ISBN4-7842-1117-9

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、「正倉院研究の現在」、「正倉院宝物と8世紀東アジアの文化」、「守る・伝える正倉院宝物」の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。
▶A4判・438頁／定価 3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

仏教東漸の旅 はるかなるブッダの道

宇野茂樹著

釈迦の聖地を起点に悠久の歴史が遺した信仰の足跡をたどる仏教美術巡礼。仏跡の地図・写真多数収載。【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インドの寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録（インドの早期石窟）
▶A4判・296頁／定価 2,625円 ISBN4-7842-0991-3

日中親族構造の比較研究

官文娜著

思文閣史学叢書

近代以降、日本は西洋異文化（近代文化）との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。本書は日中親族集団の構造を手がかりとして、日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、またともに「アジア文化圏」に属する両国の、近代以降における西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。
▶A5判・430頁／定価 7,560円 ISBN4-7842-1241-8

日本古代即位儀礼史の研究

加茂正典著

思文閣史学叢書

本書は大嘗祭はもちろん、剣璽渡御儀礼・即位式といった広義の即位儀礼をとりあげることにより、桓武・平城朝における即位儀礼の儀式的意味と歴史的意義を明らかにする。さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表、新嘗祭・大嘗祭関係文献目録（昭和20年～平成10年）を収載し、巻末には索引を付す。
▶A5判・480頁／定価 9,030円 ISBN4-7842-0995-6

孝子伝の研究

黒田彰著

佛教学大学鷹陵文化叢書⑤

孝思想に発した文学としての孝子伝は、中国の哲学や社会制度とも深く関わり、またわが国における説話文学史に大きな影響を与えてきた。本書は、孝子伝と二十四孝の伝存資料の検討および図像資料の紹介などの実証的研究を盛り込んだ成果。
【内容】孝子伝の研究／孝子伝図の研究／孝子伝と二十四孝
▶A4判・486頁／定価 3,150円 ISBN4-7842-1085-7

王権と都市

今谷明編

国際日本文化研究センターでの研究の集大成として、編者が壮大な展望のもと組織した共同研究「王権と都市に関する比較史的研究」の成果。日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、各時代・各地域での都市史のあり方を相互に比較検討し、「都市とは何か」という命題の解明に挑んだ一書。
▶A5判・372頁／定価 7,140円 ISBN978-4-7842-1396-2

※中国における妊娠・胎発生論の歴史

中村領里著

現在、日本をふくめて世界中で生命倫理をめぐる議論が熱心に進められている。この問題の解決方途は、各民族・地域の文化伝統を考慮しなければ説得力を獲得できないであろう。本書では、中国文化およびインド仏教における妊娠・胎発生論の歴史を通史的に叙述。生から死に移る過程や死観に集中している生命観の研究に一石を投じる。
▶A4判・256頁／定価 2,940円 ISBN4-7842-1295-7

塙仏の来た道 白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著

「塙仏の来た道」を丹念にたどり、そこにこめられた祈りの諸相を明らかにし、あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。まとまって出土した大分県宇佐市の虚空蔵寺跡の調査に携わった著者が考古学・美術史・文献学などの領域にわたって学際的に探った一書。
▶A5判・322頁／定価 5,985円 ISBN978-4-7842-1433-4

正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館 編集・発行

正倉院には約9,000件の宝物が収められている。終戦後すぐの昭和21年に奈良皇室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、60回を数える正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して付す。
▶A4判・286頁／定価 3,150円 ISBN978-4-7842-1440-2

仏教東漸 祇園精舎から飛鳥まで

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

西域（陳舜臣）大谷光瑞師と近代仏教学（井ノ口泰淳）インド・祇園精舎の仏教遺跡（網干善教）中国敦煌学の現段階（施萍婷）韓国毘盧遮那仏像の成立とその図像的象徴（美友邦）塑像技法の伝来（西川杏太郎）李柏文書（藤枝晃）仏教徒と異宗教との出遭い（森安孝夫）舍利信仰のひろがり（山田明爾）絵画作品の諸問題（上野アキ）記録写真集（藤枝晃）
▶B5判・264頁／定価 5,670円 ISBN4-7842-0699-X

日本古代養鷹の研究

秋吉正博著

律令国家体制の成立・展開期における養鷹の実態を究明して、放鷹文化の構造を解明。東アジアの国際情勢と照応しながら体制の内外を絶え間なく横断し展開する養鷹の社会的諸結合に現れた、朝鮮半島系と中国系という二極の放鷹文化の伝統意識を動態的に捉えることにより、単なる遊興の道具ではない放鷹文化の展開を明らかにする意欲作。
▶A5判・280頁／定価 6,825円 ISBN4-7842-1181-0

翁の生成 渡来文化と中世の神々

金賢旭著

日本中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘。日本基層文化の形成を韓半島との文化交渉から考え直すことにより、日韓文化交流の新たな相貌を浮かび上がらせる。
▶A5判・250頁／定価 5,250円 ISBN978-4-7842-1411-2

金瓶梅研究

荒木猛著

佛教学大学研究叢書⑥

『水滸伝』『西遊記』『三国志演義』とならんで中国四大奇書の一つとされる『金瓶梅』。これまで淫書と目され禁書扱いであったためか、他の小説と比べて最もその研究が遅れていた。本書では、明代の政治・社会の腐敗を暴露したこの小説を、執筆時代・素材・用語・服装など様々な側面から考察し明らかにする。
▶A5判・494頁／定価 8,925円 ISBN978-4-7842-1442-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。